

第2投目：簡単に釣れるクロ・釣れないクロ

2011.12月某日、願わくば50cmオーバーのクロを目標に今シーズン2回目の釣行です。波高予報は1.5mのち1.0m、この時期としては滅多にない風のチャンス！前回と同じくクラブのT会長と二人で渡船に乗り込みます。

本日降りた磯は昨シーズンも4枚ゲットと調子の良かったT瀬、満潮が10時前だったのでそれまでが集中してクロを釣る時間でしょうか。磯に降り、船着け側の海をみると上げ潮が手前にガンガン当たってきて徳之島側に流れていく潮、惚れ惚れするような潮の動きです。先に仕掛けをセットし、二人で撒き餌をしながら出てくる魚を観察しました。

まずイスズミ、テングハギモドキ、アイゴ、チョウチョウウオなどが出てきて潮の中で撒き餌を拾いだします。そして10分後の8:30AM、右側から払い出されるサラシから元気よくクロが飛び出し、撒き餌を拾い続けるのが確認できました。『まるで釣ってくださいと言わんばかりの動きやね(笑)』二人で談笑、私が釣ってみて良いということになり、右への流れと最初にクロが飛び出してきたサラシのぶつかりに仕掛けを刺し餌から入れ、撒き餌に同調させた数投後、43cmのクロをゲットしました！ここまではっきりとクロが餌を拾うのが確認できたうえですぐ釣りあげる事が出来たのは私自身過去を振り返っても初めての経験、いつもこのようなクロばかりなら苦労はないのですが…



しかしその後、クロの姿は船着けにも裏の水道にも確認できない時間が続き、やがて潮は下げ潮へ、朝の流れとは違う方向に流れ始めました。私が水深の浅いポイントに移動し、やっと見つけたオキナメジナを釣って遊んでいた10:30AM、船着けでやっていたT会長が何やらタモを持ってこちらに歩いてきます。タモの中には青白い魚が…『見えてたイスズミをやっと喰わしたん？』と聞くと、『これクロっす！(怒)』と苦笑しながらの返答。沈んで餌を拾っていたスズメダイが急に水面近くに浮き出した瞬間のとき、サラシの中でヒットしたそうです。やはり何かの海の変化に敏感に反応する魚ですね。

その後は私が勇敢に超浅場で掛けた巨大アオブダイにウキもろとも仕掛け全てをあっさり持っていかれたり、せっかく掛けた魚をサメに横取りされ、沖に漂流する自分のウキを必死にウキトリパラソルで回収したりとおもしろい事件は起こりましたが、互いにクロの姿は確認する事ができず、午後17時前に納竿。しかし簡単に釣れる時はあっさり釣れるのに、姿が見えても釣れない時は一日頑張っても釣れないクロという魚…奥が深いですね。まあそんなところがこの釣りの魅力でもあるのでしょうか。

